

日時：2022 年 5 月 14 日（土） 13：30～16：30

場所：オンライン

内容：領域別訓練プログラム 文字学習～ひらがな文字を中心とした視覚的記号について～

講師：東川 健（横浜市西部地域療育センター）

島村広美（横浜市総合リハビリテーションセンター）

東江浩美（狭山市青い実学園）

今回の定例会は、「領域別訓練プログラム 文字学習～ひらがな文字を中心とした視覚的記号について～」をテーマにオンラインで講義形式の報告が行われました。指導対象は就学前後の年齢のケース、あるいは特別支援学級、特別支援学校在籍のケースを想定し、ひらがな文字未学習の段階から、文字単語と絵の結合学習、文字単語構成課題を通しての 1 音 1 文字対応の学習など、初期の文字学習の支援について実際の症例報告も交えながら具体的に説明がありました。言語聴覚士・公認心理師など 100 名近くの参加者がありました。

【講義概要】

はじめに、文字記号の特性や定型発達での文字学習、言語発達障害児者に文字学習を導入する目的等の話がありました。〈S-S 法〉の記号形式－指示内容関係では、記号形式（文字、音声等）と指示対象（実物、絵）、指示内容（心的イメージ）の 3 つの関係を考えます。文字を書く・読む行為も、文字と音韻と意味（指示内容）の 3 項間で構造的対応が成立し、3 項間の構造的変換が可能になることが文字を学習する目標です。



次に基本的な手続きとして、文字単語と絵の結合学習や文字チップによる文字単語構成等について、教材や単語の選定、声かけのポイント等が具体的に挙げられました。そして、指導のデモンストレーションがあり、段階的な手続きを見て学ぶことができました。発表では、1 音 1 文字対応の理解が難しい場合でも、文字単語の理解ができると生活上有益であると話がありました。

最後に単一文字語と絵の結合学習プログラムについて発表がありました。単一文字語とは「め」「もも」など単一の種類の文字で構成される語を指し、文字単語との結合学習が進まない場合のバックアッププログラムとして有効であると示唆されました。本指導の初段階では、単一文字語を音声に加えて抑揚や

身ぶりで表出し、絵と結合する点が特徴的でした。症例の文字学習の経過から、単一文字語と絵の結合の指導を継続していく中で、清音の自力学習が促進され、文字単語と絵の結合学習や文字単語構成の学習に進んだと紹介されました。

今回の講義では、文字は何のためにあるのか？という問いから、文字の役割や文字学習の考え方や指導手順、さらに文字に限定せず視覚的記号を取り入れることで言語発達障害児の言語・コミュニケーション行動の向上に活用できると学ぶことができました。質疑応答は活発な意見交換の場となり、講義全体を通して、明日から指導に取り入れていきたいと思える有意義な時間となりました。

【参加者の声】

- これまでマニュアルを読みながら訓練を行うことはありましたが、実際にやっていると迷うことが多かったので、今回手順を詳しく教えていただき、デモンストレーションも拝見して、訓練のイメージが拡がりました。自身の臨床場面に活かして行きたいと思います。
- 東川先生の症例報告では、お子さんの学習の過程を知れただけでなく、訓練経過を整理し、どのような方略でそのお子さんの学習が進んだのかを考察していくプロセスも学ぶことができたように思います。
- 文字学習の進め方について大変勉強になる内容でした。やはり訓練においてスモールステップでの考え方はお子さんの学習の獲得にとって大切であると感じました。また、訓練室での学習をどのように家庭での学習につなげるかについても勉強させていただきました。
- 文字学習も記号形式—指示内容関係の枠組みで捉えること、また、音韻と意味・絵と文字の関係で学習過程を捉えていくことが重要だと思いました。